

地域介護力向上で講演

東電パートナース 自社の取組み紹介

法政大学大学院の「人 シンポジウム」(主催)・坂本光司研究室が都内と地域を大切に「会社」同大学院政策創造研究科で開かれ、東京電力グループ

UPで介護事業を手掛ける東電パートナースの笹尾佳子社長が講演した。障がい者や高齢者、子育てに優しい地域社会づくりの事例として、「地域の介護力向上のために、

自社の人材育成やノウハウを提供していく取り組み」について講演。会場に集まった約170人は熱心に耳を傾けていた。同社は地域の介護力向上に向け、無料で勉強会

を実施。また、介護人材育成の種をまく活動として、小中学校で就業体験ボランティアを展開。2012年度は15校から合計478人が参加した。福島支援にも取り組ん

でおり、都内で避難者対象の講習会を開いているほか、浜通りの自治体など介護講習会・研修会、高齢者が楽しめるサロンの企画・運営を行っている。サロン参加者からは「お腹の底から笑ったのは本当に久しぶり」「楽しかった」との声があがった。今後は地域住民が介護技術を学び、互いに支え合うための「お互いさま・ケアサポーター研修」の開催を検討している。



シンポジウムで講演した笹尾社長(中央)

笹尾社長は福島支援の実績をもとに、地域の介護力を高める取り組みを「首都圏でも展開していきたい」と説明。また「高齢化社会では一般の人も介護技術を習得し、地域の中でみんなが支え合う仕組みをつくるのが大事」と強調した。